

第5章 地域ビジョン

本章の内容は、計画策定にあたり開催した市民参加型ワークショップに参加いただいた市民の皆様の声に基づき、作成しています。

市民参加型ワークショップでは、多くの方々のご参加により、さまざまな、地域の実情に即した具体的なご意見が出され、話し合われました。

本章は、地域の協働により、各地域の良いところを活かし、課題に対応しながら、身近な地域福祉コミュニティのなかで、地域の目標の実現に向けて取り組むための展望を示す地域ビジョンです。

大宇陀地域

【地域の現状】

地域文化

- ・重要伝統的建造物群保存地区(宇陀松山地区)は、江戸時代からの町並みが現存しており、文化的価値が高い。
- ・森野旧薬園、県営うだ・アニマルパークなど

地域産業

- ・道の駅「宇陀路大宇陀」は『重点道の駅候補』に選定
- ・薬草を活用した特産品加工・販売



項目		項目	
総人口		5,536 人	世帯数
高齡者(65 歳以上)人口		2,550 人	高齡化率
自治会数		77 団体	自治会加入率
民生児童委員		25 人	いきいきサロン数
まちづくり協議会		8 団体	
学校の状況	小学校	1 校	児童数
	中学校	1 校	生徒数
			173 人
			91 人

※自治会加入率（令和 6 年 4 月 1 日現在）を除き、各項目令和 6 年 5 月 1 日現在の数値を記載

【アンケート調査結果】

◆ 地域とのつながり

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「あいさつをする程度の人がいる」が減少し、「会えば話をする人がある」が増加。

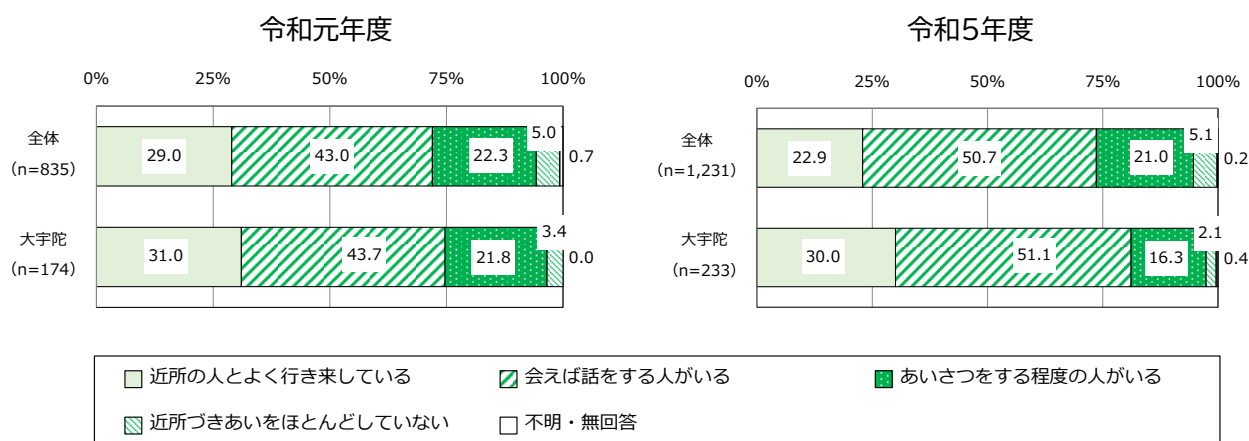
◆ 福祉の情報を十分入手できるか

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「だいたい得ることができる」が 10 ポイント程度減少し、「あまり得ることができない」が増加。

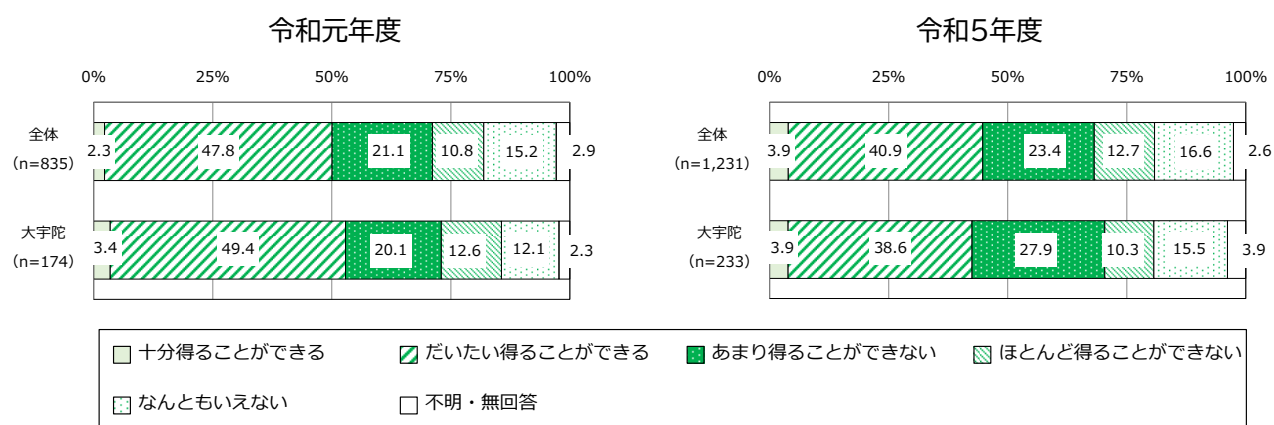
◆ 福祉への関心

- ・前回（令和元年度）と比較すると、大きな変化はみられず、全体平均と同様の割合となっている。

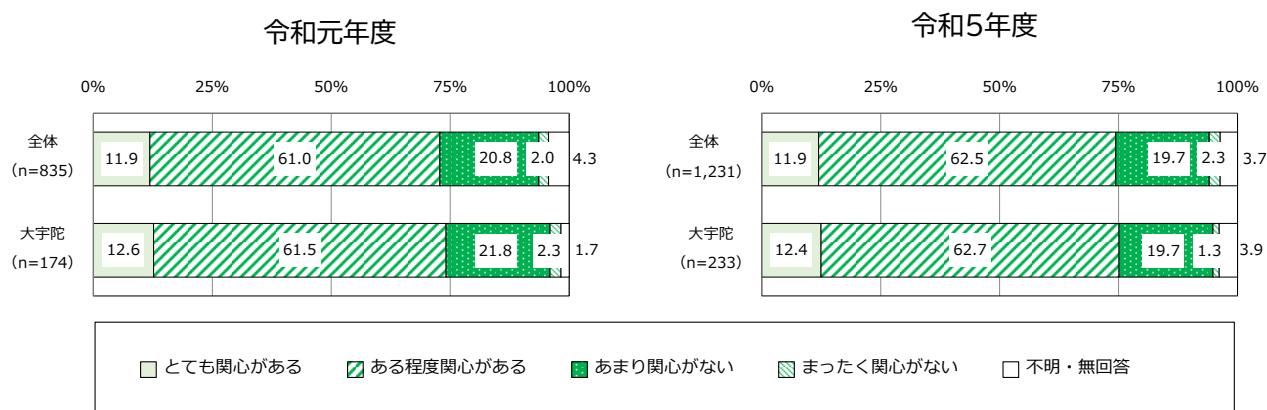
◆ 地域とのつながり（問：近所の人との関係）



◆ 福祉の情報を十分入手できるか（問：福祉に関する情報を十分得ることができているか）



◆ 福祉への関心（問：福祉に関心があるか）



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 大宇陀地域（昼の部 A グループ）

現状と課題 （第1回）	花の植栽や高齢者の見守りなどの地域活動、一部の人による買い物・病院への移動の手伝いなどが良いところとして挙げられました。しかし、人口減少による地域活動の実施困難、高齢化に対応できる交通手段の不足、子育て支援や医療費の負担、サロンや体操への参加者の減少、コロナ禍以降のイベント再開が進まないこと、役員の高齢化などが課題となっています。地域全体の支援体制や若者の参加促進が求められています。
---	--

地域の現状と課題（キーワード）

●人口減少 ●移動 ●地域活動

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「あんしん」

【つながり】では「地域の見守り」

【参加】では「交流」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段：買い物・通院】 〈共助の取組〉 ・まち協によるボランティアバス（かぎろひバス）の運行（後継者づくり） ・移動、外出する研修会の開催 【相談：あんしん】 〈共助の取組〉 ・お元気コールや地域の草刈りの活性化 ・地域の誰かが分かっている（顔が見える）関係づくり 【つながり：地域の見守り】 〈自助の取組〉 ・民生委員や高齢者（まち協）による見守りの活性化 〈共助の取組〉 ・防犯カメラの設置 【参加：交流】 〈自助の取組〉 ・グラウンドゴルフ、いきいきサロン、いきいき百歳体操などのイベントや神社やお寺などの行事への参加 〈共助の取組〉 ・桜祭り・夏祭りや、ライトアップ・夢街道、大宇陀まち歩きなど地域のイベントの活性化 ・移動スーパーの充実 ・子ども会と老人会の共同開催の復活
---	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

子どもも大人もみんなが集まる大宇陀



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】大宇陀地域（昼の部Bグループ）

現状と課題 （第1回）	移動診療車やかぎろひバス、高齢者宅訪問、多世代交流、防災訓練、ドッジボール活動などが良いところとして挙げられました。しかし、診療バス運行の回数やかぎろひバス運転手の不足、地域を担う若手の育成、多世代交流の促進が課題です。また、子どもの不在、地域の担い手不足、空き家の増加、通院・買物の不安も問題視されています。参加促進、高齢者や若者双方の参加とつながりづくりが課題です。
----------------------------------	---

地域の現状と課題（キーワード）

●まち協 ●UMC ●高齢者 ●子ども ●かぎろひバス ●自治会

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「高齢者・一人暮らし・子ども」

【つながり】では「人」

【参加】では「交流」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段：買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・ 家族による支援 ・ 生協の活用、店舗による移動販売の実施（活用） 〈共助の取組〉 ・ ボランティアバス（かぎろひバス）の運行 ・ 飲食業エリアの拡充 ・ ライドシェアの実施や中学生スクールバスへの混乗の検討 【相談：高齢者・一人暮らし・子ども】 〈自助の取組〉 ・ 子ども会への参加 〈共助の取組〉 ・ 子ども会、いきいきサロンの活性化 ・ まち協・自治会による高齢者見守りの活性化 【つながり：人】 〈共助の取組〉 ・ まち協のイベントで多世代交流 ・ 自治会や地域の祭りに参加してつながりづくり 【参加：交流】 〈共助の取組〉 ・ まち協、女性会、子ども会、更親会など既存資源の活性化
----------------------------------	---

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

まち協を中心とした地域づくり



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 大宇陀地域（夜の部）

現状と課題 （第1回）	まち協による一人暮らし高齢者への敬老の日プレゼントや健康推進講座、お寺のお参りや地域行事が盛んなことが良いところとして挙げられました。また、移住者の存在や生協の配達があることも良いところです。しかし、まち協への未加入自治会、老人クラブの不在、子どもの少なさ、高齢化による草刈りの困難さ、買い物の不便さなどが課題となっています。地域の歴史やコミュニティのつながりが強みである一方、次の代を見据えた参加の強化が課題となっています。
---	--

地域の現状と課題（キーワード）

●家族 ●少子高齢化 ●まち協 ●移動 ●買い物・食事 ●地域 ●自治会

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「一人暮らし・高齢者」

【つながり】では「見守り」

【参加】では「地域」の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段：買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・パン屋、豆腐屋の配達、移動スーパーの活用 〈共助の取組〉 ・近所の人を乗せて行く ・ボランティアバス（かぎろひバス）の拡大 【相談：一人暮らし・高齢者】 〈自助の取組〉 ・一人暮らしの方への声かけ 〈共助の取組〉 ・買い物代行 ・子ども会に代わるイベント企画者の発掘 【つながり：見守り】 〈自助の取組〉 ・ご近所同士でのあいさつ 〈共助の取組〉 ・まち協での見守り活動の活性化 ・昔できていた活動の再開 【参加：地域】 〈自助の取組〉 ・いきいきサロン、いきいき百歳体操への参加 〈共助の取組〉 ・自治会の集まりやご近所同士の食事会の開催 ・地域の道づくり、草刈り、墓掃除
---	---

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

あんしん・助けあいのまちづくり
ハッピー大宇陀



菟田野地域

【地域の現状】

地域文化

- ・「菟田野秋まつり」をはじめ、古くから続く祭りや行事も多く、地元住民が参加し、地域の歴史と文化が守られている。
- ・カエデの郷ひらら、国宝宇太水分神社など

地域産業

- ・銘木、毛皮革産業、農業



項目		項目	
総人口		3,255 人	世帯数
高齢者(65 歳以上)人口		1,426 人	高齢化率
自治会数		17 団体	自治会加入率
民生児童委員		17 人	いきいきサロン数
まちづくり協議会		1 団体	
学校の状況	小学校	1 校	児童数
	中学校	1 校	生徒数
			147 人
			94 人

※自治会加入率（令和 6 年 4 月 1 日現在）を除き、各項目令和 6 年 5 月 1 日現在の数値を記載

【アンケート調査結果】

◆ 地域とのつながり

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「あいさつをする程度の人がいる」が減少し、「近所の人とよく行き来している」が増加。

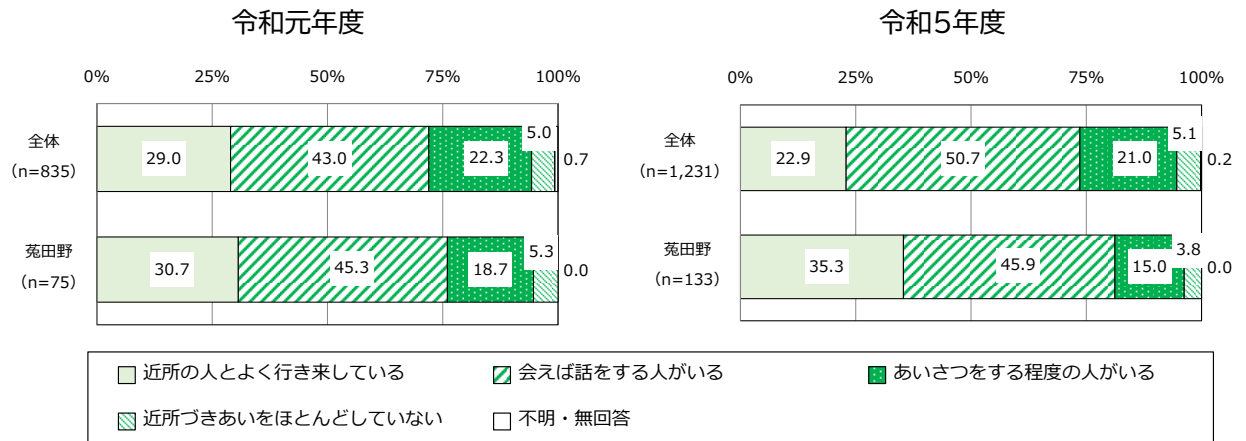
◆ 福祉の情報を十分入手できるか

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「十分得ることができる」、「ほとんど得ることができない」がともにやや増加。

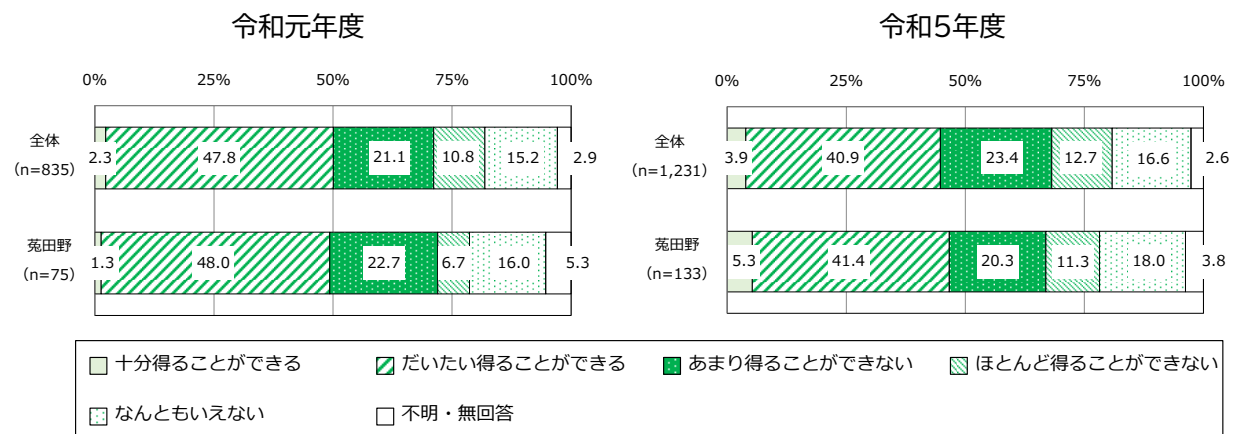
◆ 福祉への関心

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「とても関心がある」、「ある程度関心がある」がともに増加。

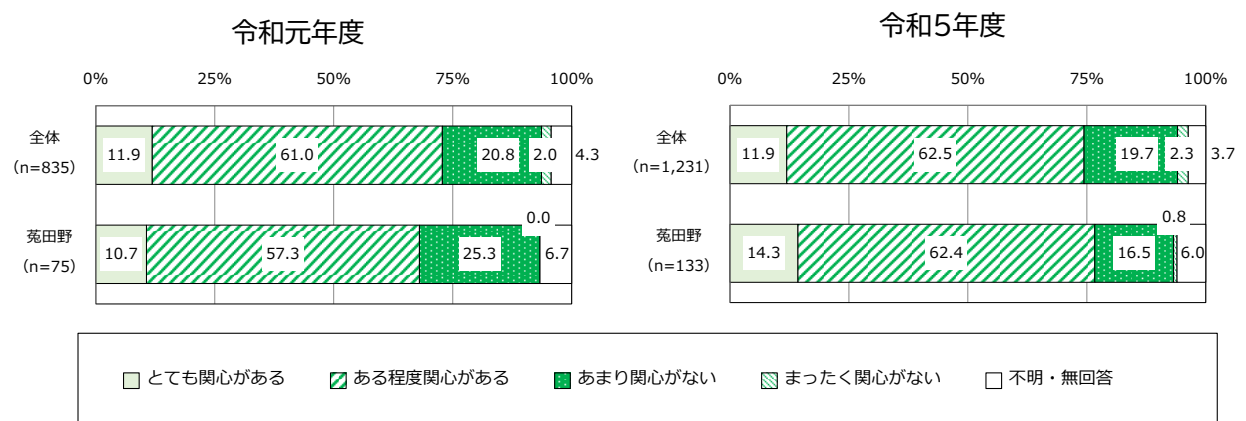
◆ 地域とのつながり（問：近所の人との関係）



◆ 福祉の情報を十分入手できるか（問：福祉に関する情報を十分得ることができているか）



◆ 福祉への関心（問：福祉に関心があるか）



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 菟田野地域（昼の部）

現状と課題 （第1回）	らくらくタクシーの存在や学校跡の有効活用、小学校の教師との連携、介護施設や医療機関の充実、温かい近所の支え合いなどが良いところとして挙げられました。しかし、コロナ禍でイベントや行事が縮小され、復活が進まないこと、災害時の避難場所の不足、高齢者の外出や買い物の不便さ、史跡が十分に知られていないこと、引きこもりの方への声かけ、若者の少なさなどが課題となっています。
----------------------------------	---

地域の現状と課題(キーワード)

- 近所の支え合い ●交通の便 ●福祉・医療施設 ●近所関係 ●インフラ
 ●小学校・中学校との関わり ●集いの場 ●地域資源の活用 ●イベントの縮小

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「近所の支え合い」

【つながり】では「相談・参加」

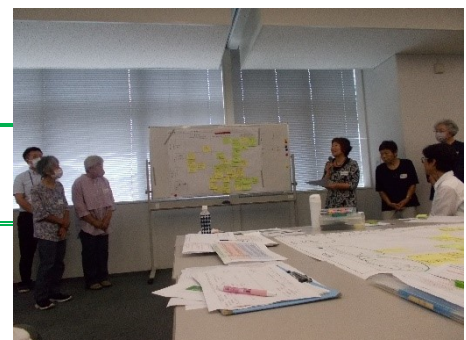
【参加】では「集いの場」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・生協の戸別配達の利用 〈共助の取組〉 ・ライドシェアのドライバー確保 【相談:近所の支え合い】 〈自助の取組〉 ・あいさつができるご近所づきあい ・自家栽培の野菜のおすそ分け 〈共助の取組〉 ・気軽に頼むことができる有償ボランティア ・あいさつから、イベント等へのお誘い 【つながり:相談・参加】 〈自助の取組〉 ・野菜のおすそ分けから声かけをする 〈共助の取組〉 ・いきいきサロンの内容の検討（誰でも参加しやすいように） ・まち協での子どもの農業体験の活性化 ・カエデの郷ひらの有効活用（地域の人に参加できるイベント開催など） ・こども食堂を活発化 ・さまざまな活動の（若い）後継者の育成 【参加:集いの場】 〈共助の取組〉 ・いきいきサロン活動の活発化 ・気軽に誰でも集える場と運営者の発掘 ・観光ボランティアの活性化、若い人のボランティア参加
----------------------------------	---

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

みんながもどりたくなるまちうたの



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 菟田野地域（夜の部）

現状と課題 （第1回）	らくらくタクシーの導入や地域全体の人権意識の高さ、病院の近さ、歴史的なお祭り、いきいきサロンの活動などが良いところとして挙げられました。しかし、冬季の道路状況対策の困難さ、住民間のコミュニケーション不足、子どもの数の少なさ、菟田野地域の文化を広める活動の不足、いきいき百歳体操やいきいきサロンの参加者が限られていることなどが課題として挙げられています。
---	---

地域の現状と課題（キーワード）

●交通 ●少子高齢化 ●人 ●集いの場 ●自然・文化

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「少子高齢化」

【つながり】では「人とのつながり」

【参加】では「集いの場」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・地域のスーパーや商店による配達を活用 〈共助の取組〉 ・地域の事業所による買い物支援の充実 ・ライドシェアボランティア ・交通難民、買い物難民をなくす地域の移動システムの構築 【相談:少子高齢化】 〈自助の取組〉 ・お国自慢ができる子どもを育てる 〈共助の取組〉 ・妊娠中のママが相談できるところ（人）がほしい ・専門学校と空き家対策でコラボ ・市の空き家対策への協力 ・空き家を活用して、宇陀の自然を生かした移住促進 【つながり:人とのつながり】 〈自助の取組〉 ・高齢者同士で日常的に連絡を取り合う 〈共助の取組〉 ・まち協の取組を通じて地域内外の人とつながりを深める ・世話焼きさんの復活 ・地域の学校の存続 【参加:集いの場】 〈共助の取組〉 ・こども食堂の活発化 ・気軽に立ち寄れる大字にひとつずつのカフェ ・人権交流センターでのコミュニティを求める人（移住者）の受け入れ
---	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

心豊かに人と人がつながるまち



榛原地域

【地域の現状】

地域文化

- ・地元の伝統行事や祭りが季節ごとに開催され、地域の絆を深める場となっている。
- ・駅周辺に商業施設、文化施設、健康増進施設等が立地

地域産業

- ・商業、教育・福祉、サービス業



項目		項目	
総人口		14,518 人	世帯数
高齡者(65 歳以上)人口		6,045 人	高齡化率
自治会数		75 団体	自治会加入率
民生児童委員		34 人	いきいきサロン数
まちづくり協議会		5 団体	
学校の状況	小学校	3 校	児童数
	中学校	1 校	生徒数
			562 人
			290 人

※自治会加入率（令和 6 年 4 月 1 日現在）を除き、各項目令和 6 年 5 月 1 日現在の数値を記載

【アンケート調査結果】

◆ 地域とのつながり

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「近所の人とよく行き来している」が減少し、「会えば話をする人がある」が増加。

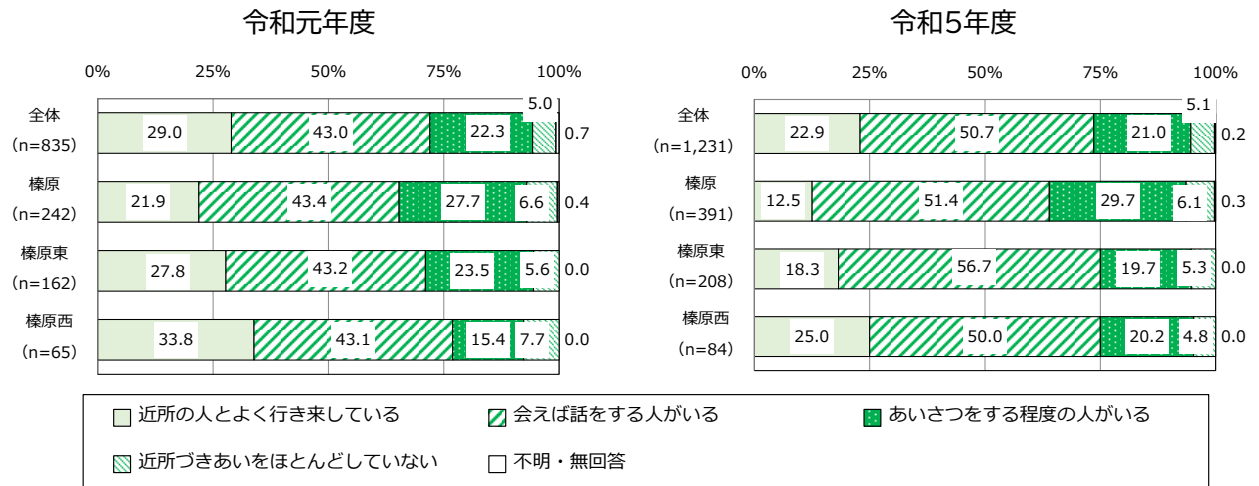
◆ 福祉の情報を十分入手できるか

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「だいたい得ることができる」が榛原、榛原東では減少、榛原西では増加。

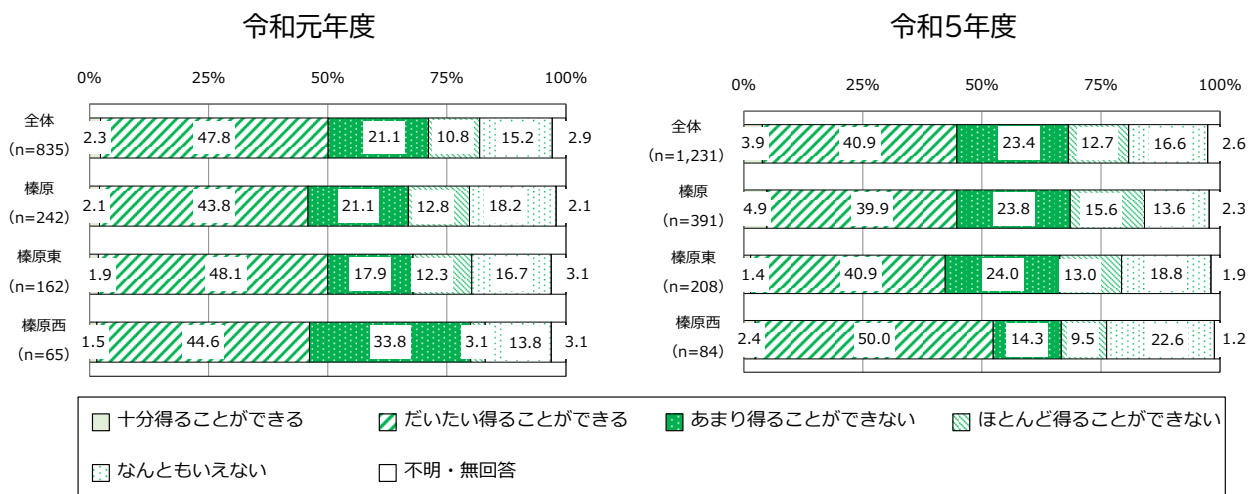
◆ 福祉への関心

- ・前回（令和元年度）と比較すると、大きな変化はみられないが、榛原西で『関心がある』割合がやや増加。

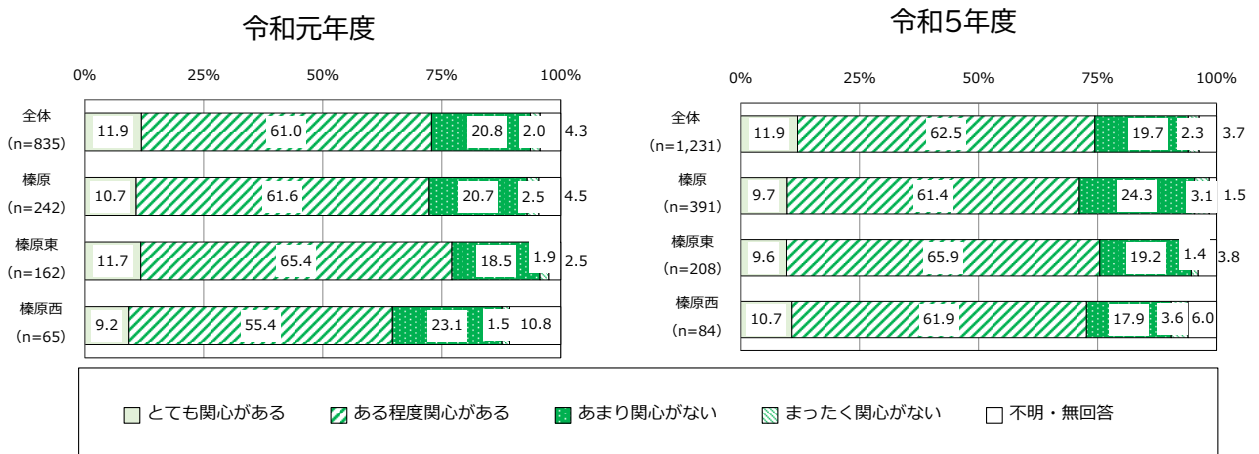
◆ 地域とのつながり（問：近所の人との関係）



◆ 福祉の情報を十分入手できるか（問：福祉に関する情報を十分得ることができているか）



◆ 福祉への関心（問：福祉に関心があるか）



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 榛原地域（昼の部 A グループ）

現状と課題 （第1回）	夏まつりやラジオ体操などのイベント、親同士の協力や子ども見守り隊、買い物のしやすさ、医療機関が近くにある点などが良いところとして挙げられています。しかし、高齢化の進行や空き家の増加、認知症の方のサポート不足、子どもの習い事の減少、道路の傷みなどが課題となっています。高齢者スポーツへの支援や地域活動への参加者減少も懸念されています。
地域の現状と課題（キーワード） ●空き家 ●道路 ●子ども ●ラジオ体操 ●公民館事業 ●まつり ●見守り ●自主活動 ●人口の偏り・いっきに高齢化 ●買い物 地域の良いところを活かし、課題に対応するために… 【移動手段】では「買い物・通院」 【相談】では「高齢者が生活に困らない」 【つながり】では「社会参加・活躍」 【参加】では「自治会・移住者」 の視点が必要	
必要な取組 （第2回）	【移動手段：買い物・通院】 〈共助の取組〉 ・ デイサービスを利用した買い物 ・ 移動店舗の利用補助 ・ 高齢者の買い物支援 【相談：高齢者が生活に困らない】 〈自助の取組〉 ・ 高齢者への声かけや外に出たくなるコミュニティづくり 〈共助の取組〉 ・ 声かけを役割とするボランティア ・ 男性が集まりやすい居場所づくり 【つながり：社会参加・活躍】 〈自助の取組〉 ・ 自宅の環境を整える ・ 草取りの声かけ 〈共助の取組〉 ・ 草刈り、まちの美化活動の活性化 ・ 公民館を生かして集まれるサロン活動を多くする ・ 地域で子どもが集まる場所をつくる 【参加：自治会・移住者】 〈自助の取組〉 ・ 新しい世代が転入する・全員が自治会に入る・高齢者が参加できるまちづくり 〈共助の取組〉 ・ 図書館を生かした教室・イベント・居場所づくり ・ 自治会からさまざまな情報発信

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

みんなが社会参加できる、
住んでいて気持ちいい町



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 榛原地域（昼の部Bグループ）

現状と課題 （第1回）	移動診療車の利用やコミュニティスクールの担当者配置、近所の声かけによる気かけ合える関係が良いところとして挙げられました。しかし、山間部での災害時の避難や高齢者の運転免許返納後の移動手段不足、草刈りをする若者の不在、地域と学校のつながりの減少、一人暮らしの支援などが課題となっています。そのほか、情報共有や地域活動の場が少ないことが問題とされています。新しい民泊が地域に関わる良い事例もありますが、コミュニケーションの強化が課題です。
----------------------------------	--

地域の現状と課題（キーワード）

●災害 ●情報 ●交流 ●UMC ●居場所 ●交流 ●移動手段

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「安全・安心」

【つながり】では「つながり」

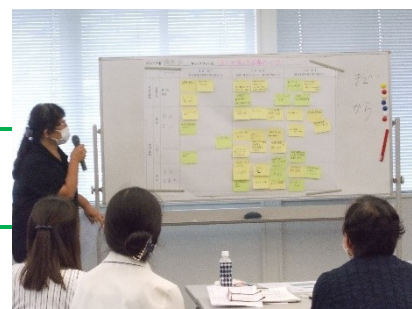
【参加】では「交流・居場所」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・通院の手伝い ・インターネットで買い物する ・出かける先を必ず伝える 〈共助の取組〉 ・高齢者の見守り活動を活発に行い、生活状況を把握する ・各戸への移動販売 【相談:安全・安心】 〈自助の取組〉 ・携帯電話を必ず持つ ・地域の危険箇所の見守り 〈共助の取組〉 ・子ども見守り隊、高齢者見守り隊、青パトカーの充実 ・民生委員活動、相談の充実 ・シルバー人材等地域の人材活用 【つながり:つながり】 〈自助の取組〉 ・1日1回の散歩 〈共助の取組〉 ・ご近所での声のかけ合い ・自治会、まち協、老人会、民生委員、保護司等の地域の組織を活用 【参加:交流・居場所】 〈共助の取組〉 ・保育園と老人会の交流 ・老人会、子ども会、自治会、まち協等の活発化 ・高齢者が気軽に集まれる場所づくりや飲食店の活用
----------------------------------	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

誰もが集える居場所づくり



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 榛原地域（夜の部）

現状と課題 （第1回）	ラジ体操リレーや防災訓練が行われ、また地域の防犯・防災意識が高い点が良いところとして挙げられました。隣近所のつながりは強く、元気な高齢者が多い一方で、自治会が組織として成り立たなくなっていることや、地域活動をする人材がいないこと、地域のコミュニケーション不足などの課題があります。高齢化の進行や空き家の増加、買い物の不便さ、雇用の不足、道の草刈りの負担も地域の問題となっています。また、どこに相談すれば良いかわからないといった不安もみられました。
----------------------------------	---

地域の現状と課題（キーワード）

●雇用 ●暮らし ●道 ●空き家 ●少子高齢化 ●交流 ●防災 ●参加

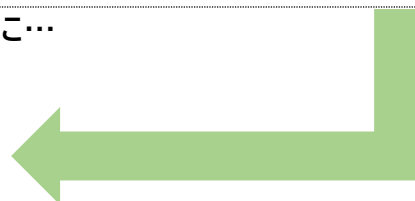
地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「安心」

【つながり】では「支え合い」

【参加】では「地域交流」



の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 〈共助の取組〉 ・ライドシェア、福祉ライドシェアの取組 ・買い物支援の充実、宅配（買い物）サービスの向上 【相談:安心】 〈自助の取組〉 ・大人からのあいさつ運動 ・見守り訪問 〈共助の取組〉 ・防災訓練の充実 【つながり:支え合い】 〈自助の取組〉 ・隣近所での声かけ 〈共助の取組〉 ・ワンコインライフサポート事業の充実 ・自治会組織の見直し 【参加:地域交流】 〈自助の取組〉 ・地域行事への参加 〈共助の取組〉 ・若い人（子ども）と高齢者の交流の場（こども食堂→高齢者食堂） ・地域の行事の見直しと整理 ・ゆるっとマルシェ、地域の祭り等の活性化 ・太鼓台を曳山に
----------------------------------	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

みんなに自慢できる賑わいのある
魅力あるまち



室生地域

【地域の現状】

地域文化

- ・古代からの歴史や信仰が息づく場所であり、歴史的な遺産や自然景観を保護するための活動が行われている。
- ・国宝室生寺、室生山上公園芸術の森など

地域産業

- ・茶などの農業、林業、観光業



項目		項目	
総人口		3,773 人	世帯数
高年齢者(65 歳以上)人口		1,943 人	高齢化率
自治会数		46 団体	自治会加入率
民生児童委員		20 人	いきいきサロン数
まちづくり協議会		8 団体	
学校の状況	小学校	1 校	児童数
	中学校	1 校	生徒数
			104 人
			61 人

※自治会加入率（令和 6 年 4 月 1 日現在）を除き、各項目令和 6 年 5 月 1 日現在の数値を記載

【アンケート調査結果】

◆ 地域とのつながり

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「近所の人とよく行き来している」が 10 ポイント程度減少。

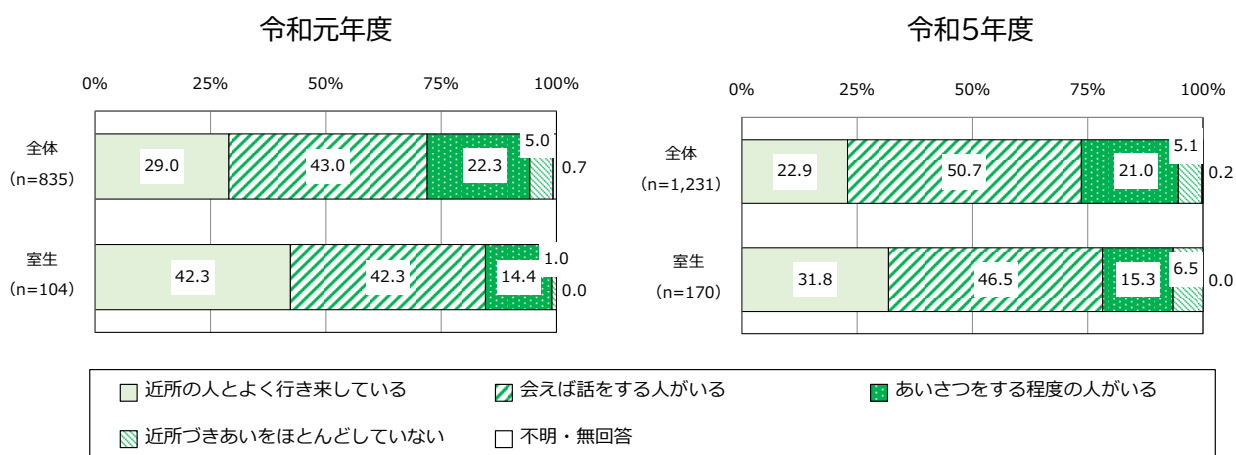
◆ 福祉の情報を十分入手できるか

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「だいたい得ることができる」が 10 ポイント以上減少し、「なんともいえない」などが増加。

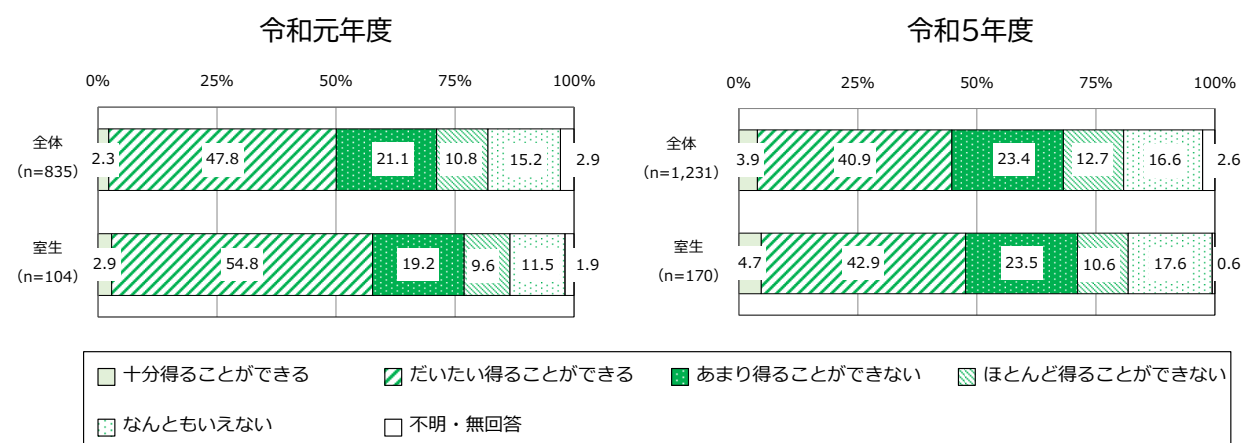
◆ 福祉への関心

- ・前回（令和元年度）と比較すると、「ある程度関心がある」が増加し、地域別にみると福祉への関心は最も高い。

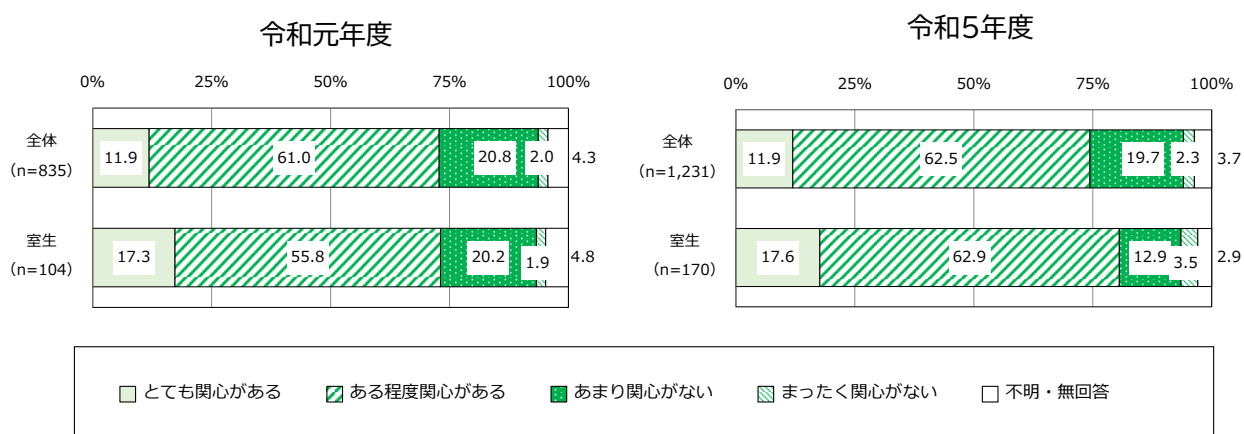
◆ 地域とのつながり（問：近所の人との関係）



◆ 福祉の情報を十分入手できるか（問：福祉に関する情報を十分得ることができているか）



◆ 福祉への関心（問：福祉に関心があるか）



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 室生地域（昼の部 A グループ）

現状と課題 （第1回）	ボランティア活動等が活発である一方で、メンバー不足が課題となっています。また、高齢者向けの行事や、高齢者の地域貢献の機会が多くあることが良いところとして挙げられる一方で、独居の高齢者の増加や、若い世代の不在が問題視されています。地域資源の活用としてスクールバスの利用などが提案されていますが、意見を出し合い、話し合う場やつながりが少ないという意見がみられました。子ども向けの遊び場所が不足しており、地域とのつながりが減少していることも課題となっています。
地域の現状と課題（キーワード） ●地域のつながり、見守り、親切 ●ボランティアが活発 ●交流の場の減少 ●地域資源の活用 ●子ども ●若い世代がいない 地域の良いところを活かし、課題に対応するために… 【移動手段】では「<u>買い物・通院</u>」 【相談】では「<u>一人暮らし(孤立)</u>」 【つながり】では「<u>交流の場</u>」 【参加】では「<u>子ども・高齢者</u>」 ← の視点が必要	
必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 〈自助の取組〉 ・身近な友人、親戚からの「助けて」の声があれば協力する ・生協の活用 ・現在の移動手段のサービス状況を知る 〈共助の取組〉 ・移動手段のサービス状況についての情報提供 ・町内くるくるバス（巡回バス）の運行 ・買い物や通院ツアーの検討 【相談:一人暮らし(孤立)】 〈共助の取組〉 ・声かけの徹底 ・新聞配達や配食サービスでの声かけ、安否確認 ・民生委員での見守り（高齢者調査） ・お互いに迷惑をかけあう（支え合う）ことが必要とされる人間関係の育成 【つながり:交流の場】 〈自助の取組〉 ・近所の人とのコミュニケーションを広げる 〈共助の取組〉 ・交流の場（公民館・集会所の開放） ・多世代の井戸端会議の場づくり ・自然に交流できる地域行事の開催 ・将来出てくる問題を話し合える場づくり 【参加:子ども・高齢者】 〈共助の取組〉 ・小学校、中学校のスクールバスの活用（例えば高齢者がバスを利用して小学校を集いの場に） ・放課後の小学校校庭開放（子どもが遊べるように） ・地域の行事に子どもの参加を進める

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

笑顔の声かけ



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 室生地域（昼の部Bグループ）

現状と課題 （第1回）	月一回の高齢者向けサロンや、ゲートボールなどの交流活動が盛んですが、ボランティアの高齢化や若者との交流不足、住民同士の会話の減少が課題として挙げられています。美しい景観があることや、夏まつりの復活、空き家が比較的少ないことが良いところとして挙げられた一方で、利用できる空き家が不十分という意見もみられました。便利な田舎という意見もありますが、交通機関の利便性が悪いという意見もみられます。また、就職先の選択肢も少ないことが人口減少の一因として課題となっています。
----------------------------------	---

地域の現状と課題（キーワード）

●獣 ●移動・車 ●働く場 ●空き家・移住 ●景観・道路・草刈り ●人
 ●サロン・ボランティア ●交流の場

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【つながり】では「人」

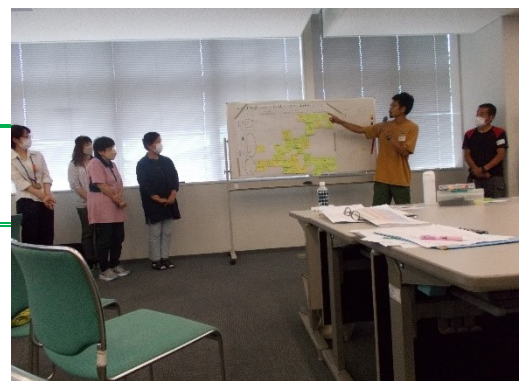
【参加】では「交流の場」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段：買い物・通院】 〈共助の取組〉 ・ 公民館へ移動販売（公民館まで送迎） ・ 送迎のある医院との連携。訪問診療（往診） 【つながり：人】 〈自助の取組〉 ・ 使用していないハウスを利用希望者に貸し出し（ともに獣害対策） 〈共助の取組〉 ・ 公民館（集会所）の活用（防災） ・ 月1回の食事会など、対話の場づくり ・ みんなが参加できる高齢者と若者の交流の場（移動手段がない高齢者への支援） ・ 住民と移住者のリンクワーカー（その土地の人） 【参加：交流の場】 〈自助の取組〉 ・ 地域のイベントや行事に参加する（地元の祭りに他県に出ている子どもを呼んで参加） ・ 音楽の森の活用 〈共助の取組〉 ・ 大人食堂の取組 ・ いきいきサロンやいきいき百歳体操などの充実と参加増 ・ 学校給食を地域の人でも食べられる機会づくり ・ 若い人たちが交流する場や機会づくり
----------------------------------	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

対話でつながる居場所づくり



【市民参加型ワークショップで話し合ったこと】 室生地域（夜の部）

現状と課題 （第1回）	二輪草(サロン)の活動やデマンドタクシーの存在、病院・診療所・デイサービスの利便性などが良いところとして挙げられました。また、移住者が増えていることや、女性の高齢者が協力的である点も良いところです。しかし、一人暮らしの高齢者が多く、食事や交流に困難を抱えている状況もみられます。また、コロナ禍の影響で地域の交流が減少していることや、人口減少も問題となっており、居住体験施設が活用されていないことも課題となっています。
---	---

地域の現状と課題(キーワード)

●病院・介護 ●ボランティア ●交流 ●イベント ●移住・空き家 ●交通手段

地域の良いところを活かし、課題に対応するために…

【移動手段】では「買い物・通院」

【相談】では「一人暮らし」

【つながり】では「イベント」

【参加】では「イベント」

の視点が必要

必要な取組 （第2回）	【移動手段:買い物・通院】 <u>〈自助の取組〉</u> ・インターネットで買い物する <u>〈共助の取組〉</u> ・デイサービスの送迎車の活用検討 ・ボランティアによる送迎支援 ・たくさん取れた野菜、果物をよく知っている人にあげる物々交換 【相談:一人暮らし】 <u>〈自助の取組〉</u> ・ご近所の見守り・声かけ ・デイサービスの活用(生きがいデイ) <u>〈共助の取組〉</u> ・夏祭り、村(秋)祭りなど顔を合わせる行事を継続する ・一人暮らしの方々が集まってサークル活動(独居クラブ) 【つながり:イベント】 <u>〈共助の取組〉</u> ・まち協、サロン活動の活性化と敬老会の継続 ・誰でも参加できる行事(内容)の検討(世代交流) ・各ボランティア活動をつなぐコーディネーター活動の輪を広げる 【参加:イベント】 <u>〈自助の取組〉</u> ・参加しようという気持ちを持つ <u>〈共助の取組〉</u> ・こども食堂の整備・継続 ・榛原まち協とタイアップした三郎岳や伊勢本街道など地域資源の整備 ・イチョウの広場(キャンプ場)の活用、音楽会の開催 ・空き家に関する地域との情報交換や、空き家の定期借家としての活用検討(NP0) 借りたい人と貸したい人のマッチング支援(NP0とまち協の連携)
---	--

【今後5年間の目標・キャッチフレーズ】

ちっちゃなつながりをつないで大きな〇(わ)

